

様々な部署で発生する画像や検査データの一元管理のため、システムの導入を検討
診療データ統合管理システム「STELLAR」の導入で問題を解決



竹田院長

導入経緯

新しい電子カルテでは画像や検査データを一元に管理したい

過去の電子カルテでは、放射線科、内視鏡センター、健康管理センター、心臓工コーなど様々な部署で発生する画像と、検査課で発生する検査データをまとめて管理することができませんでした。これらを改善するために、新しい電子カルテではこれらのデータを一元管理できるようなシステムを導入しようと検討していました。

電子カルテの入れ換えを機に、HIS 機能の拡張性のあるシステムをあわせて導入することで、HIS だけではクリアにならない問題点を解消したいと考えました。それがアストロステージ製の診療データ統合管理システム「STELLAR」でした。

「STELLAR」は院内の各部門で発生する画像を一元的に管理し、検査結果の数値データとともに時系列で一つの画面に管理することができるのでとても魅力的でした。

たくさんのシステムを見ましたが、その中でも一番、「STELLAR」の使い勝手がよく、ドクターからも好評でした。また、当院の要望などを柔軟に対応していただき、色々な提案もしてくださいました。将来の発展性や拡張性を想像することができたことが、選定のポイントとなりました。

導入システム

- DICOM 画像管理システム **Nazca**
- DICOM 変換ツール **TransferTool**
- 診療情報統合システム **STELLAR**
- ドキュメント作成&管理システム **STELLARReport**
- 画像キャプチャシステム **ARKGate**

導入効果

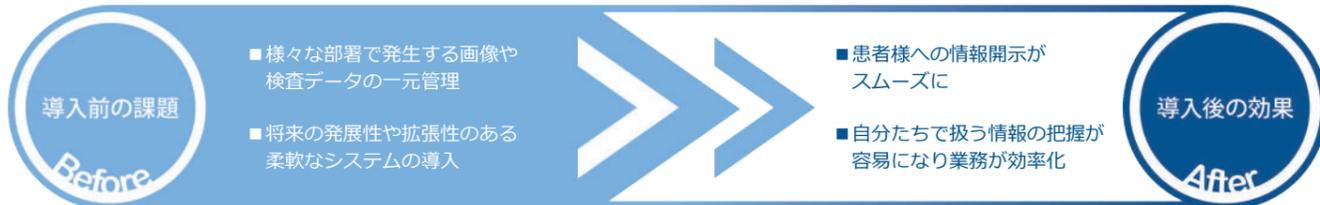
患者様への情報開示や、自分たちの情報把握が簡易になり業務の効率化

特に患者様への説明には非常に便利です。例えば手術をした患者様やそのご家族へ説明をする際に、手術をした直後の写真と手術中の内視鏡の写真などをワンクリックでお見せすることができます。またその流れを順を追って説明するのに役立ちます。この点は非常に煩瑣なく、更には時系列でお見せすることができるので患者様への情報開示がスムーズになりました。

私たちの情報把握も簡易になり院内全体の業務効率化に繋がりました。今までは電子カルテを先に開いていたのですが、今では電子カルテを開くと同時に STELLAR の画面を必ず開き、両方を組み合わせて、前回は何を、今日は何を、など照らし合わせながら確認を行う、といった二次元的な仕事ができるようになりました。



医学博士 今田先生



黒部市民病院：システム導入時期 / Apr 2013



富山県黒部市にある黒部市民病院は、新川医療圏における地域中核病院として、365日24時間すべての救急搬送患者を受け入れており、さらに新川医療圏の小児急患センターを併設しています。このほかヘリポートを備えた地域災害医療センター、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、へき地医療拠点病院などの指定を受けており、いつでも患者様のために高度で質の高い医療を提供しています。

また、現在は、今までの医療機能を維持するとともに、急性期病院としての機能を強化し、加速する医療の進歩と変化に対応可能な病院を増改築中です。

病院スタッフの全職種技術・知識の向上を目指し教育・研修に力を注いでおり、患者様ばかりではなく職員にも優しい環境作りを努めています。

所在地：富山県黒部市三日市 1108-1

病床数：414 床

診療科：内科・外科・小児科・整形外科・脳神経外科・呼吸器外科・心臓血管外科
泌尿器科・眼科・耳鼻いんこう科・産婦人科・皮膚科・神経内科・消化器内科
麻酔科・放射線科・核医学 PET 画像センター・形成外科・精神科 / 心療内科
リハビリテーション科・関節スポーツ外来・漢方内科・歯科口腔外科
セカンドオピニオン外来

今後の方針

当院に存在するシステムの利用範囲を医科診療所以外に歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー、リハビリ療法士の方々への拡大を予定しています。これまで築き上げてきた「顔の見える連携」を、ICT を利用してさらに発展させていきたいと考えています。地域に根ざした医療の展開に力を入れてまいります。

今後の期待・要望

たくさんの施設・地域で様々なニーズがあると思います。そのような要望を柔軟に取り入れて、より汎用できるようなシステムに成長していただくことを期待しています。



システム使用風景

システム構成図

